

教員名	松本 勲武 (MATSUMOTO Isamu)
所 属	理学部化学科
学 位	薬学士(1967 東京大学)、薬学修士(1969 東京大学)、 薬学博士(1972 東京大学)
職 名	教授
URL/E-mail	isamu@cc.ocha.ac.jp

◆研究キーワード

レクチン / アネキシン / アフィニティー吸着体

◆主要業績

総数 (4) 件

- Annexins I and IV inhibit Staphylococcus aureus attachment to human macrophages.
Gotoh M, Takamoto Y, Kurosaka K, Masuda J, Ida M, Satoh A, Takayama E, Kojima-Aikawa K, Kobayashi Y, Matsumoto I.
Immunol Lett. 2005 May 15;98(2):297-302
- Differential expression of the keratin-4,-13,-14,-17 and transglutaminase 3 genes during the development of oral squamous cell carcinoma from leukoplakia. Ohkura S, Kondoh N, Hada A, Arai M, Yamazaki Y, Sindoh M, Takahashi M, Matsumoto I, Yamamoto N
Oral Oncol. 2005 Jul;41(6):607-13.
- The earliest thymic progenitors in adults are restricted to T, NK, and dendritic cell lineage and have a potential to form more diverse TCRbeta chains than fetal progenitors.
Lu M, Tayu R, Ikawa T, Masuda K, Matsumoto I, Mugishima H, Kawamoto H, Katsura Y.

◆研究内容

主としてレクチンの研究を行った。
植物では、新規レクチンのスクリーニングを行った。
動物レクチンでは、主としてヒト血漿中のアネキシン型レクチンの性質を明らかにした。
①アネキシン V はグラム陽性菌に結合し、マクロファージの食食作用を阻害する、いわゆる免疫抑制作用を持つことを示した。特異抗体のオプソニン作用と拮抗する系があることが明らかになった。
②ヒト血漿中では、男性よりも女性においてアネキシン IV 濃度が著しく高いことを発見した。また、アネキシン IV が異常部位での血液凝固を阻止し、正常部位では血液凝固阻害活性を示さないとの実験結果を得た。この新知見から、アネキシン IV が副作用のない血栓予防あるいは治療薬として有用であると考えられる。日本人の三大死因である悪性腫瘍、心疾患、脳血管症においては、それぞれ播種性血管内凝固症候群、心筋梗塞、脳血栓症など、最終的には血栓が死因となっていることを考えると、内在性抗凝固剤であるアネキシン IV の研究促進の重要性は極めて高いと思われる。

◆教育内容

学部では、主として生化学関連の基礎的および専門的な内容を紹介する授業および実験、ならびに化学の基礎実験の指導を行った。授業科目は次の通りである。
構造生化学 II
生体分子機能・認識学
生物化学実験
化学基礎実験
大学院博士前期課程では生化学の専門分野、特に糖鎖関連分野の講義、ならびに演習を行った。
糖鎖分子生物学
生物化学
生物化学演習
大学院博士後期課程では、学位論文の研究の指導を行った。日仏共同博士課程の制度のもとで初めてストラスブールのルイパスツール大学へ派遣された学生については、指導及び学位審査を先方の教授と共同で行った。

◆受験生等へのメッセージ

本学は中期目標・中期計画の前文冒頭で『お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって真摯な夢の実現される場所として存在する。すべての女性とその年齢国籍等にかかわらず、個人の尊厳と権利を保障され、自由に己の資質能力を開発し、知的欲求の促すまま自己自身の学びを深化させることを支援する』と言明しています。

若い方のなかには『学び→勉強→試験→受験→苦痛』という暗い連想をされる方が多いかもしれません。孔子の学問の極意『之を知るは之を好むにしかず。之を好むは之を楽しむにしかず』は、『知る→好む→楽しむ』という学びの深化を説いています。私は『学び→最高の遊び→至上の楽しみ』というホモ・ルーデンスの連想のとりこになっています。お茶大とのかかわりにより、この連想がすべての女性にとって自己自身の現実の事となり、延いては真摯な夢の実現となることを願っています。